

大学生サークル・農村マッチング方策の構築と適用

Construction and application of policy in cooperation with college student circles and farming villages

中里良一

NAKAZATO Ryoichi

1. 目的

農村地域では農家の高齢化、過疎化が進展し、地域住民だけで農業集落の機能を維持することが困難な集落が増加(Fig.1)しており、対策が急がれている。この対策として大学生が関与することが有効と考えた。そこで本稿では、農政局が大学生サークルと農業集落のマッチングを行い、農業集落が大学生の応援を得ることにより、農業や農村の振興が図られ、農業集落機能が維持され、加えて、将来を担う若者に農業・農村の現状を知って、体験してもらうとともに、その役割・重要性を理解してもらい、将来の農業・農村の担い手、応援者になることが期待できる方策の構築と適用について報告する。

2. 方策の構築

(1)大学生及びサークルに着目した理由

- ①大学生は時間の確保が比較的容易で、広範囲に行動することができ、体力もある。
- ②サークルという枠組みは、1)多くの大学生が参加しやすい、2)活動の目的意識が共有される、3)1

年間を通じていつでも適時に関われる、4)長年、継続した活動が期待できる、5)必要な時に必要な人数が確保できる、6)農作業のスキルの上昇・伝達が期待できる点から有効である。

(2)対象とする大学生サークル

農業・農村をテーマに活動する大学生サークル

○管内（新潟県、富山県、石川県、福井県）の既存大学生サークルの調査を行う。

○各県内に大学生サークルが無い場合は、新しく設立する。（管内の既存大学生サークルは石川県立大学「学生援農隊めぐり」のみ）

(3)新しい大学生サークルの設立

平成 25 年度に農政局が「大学生のみなさん！農村にかかわりませんか」というテーマで、5 大学において出前講義を行いサークルの設立を呼びかけ、短期間で 5 つの大学生サークルが設立された。

1)新潟大学「むらづくり研究会」、2)富山大学「援農団体たっぐ」、3)富山県立大学「水土里保全研究会」、4)福井大学「農業村応援し隊」、5)福井県立大学「里山応援サークル」

なお、2)～5)のサークルの部員は、経済学部、工学部、教育地域科学部である。

(4)対象とする農業集落

大学生サークルの応援を希望する農業集落等



Fig.1 農業集落数の推移

○管内の大学生サークルの応援を希望する農業集落等の調査を行う。

(5)大学生サークルに応援してもらう内容

1)農作業、2)耕作放棄地の農地復元及び農作物、花等の植栽、3)農産物のブランド、加工商品化、4)むらづくり、イベントの企画、実施、5)農村環境保全活動(i)水路清掃、花の植栽等美化活動、ii)生き物調査、環境学習)等

3. 方策の適用

(1)進め方

第1ステップ：農政局が「大学生サークル」と「農業集落」をマッチング



第2ステップ：「大学生サークル」と「農業集落」が直接連絡調整、連携活動開始

(2)マッチングの状況(Fig.2,3)

①新潟大学「むらづくり研究会」－梅の陣実行委員会（新潟市）等

②富山大学「援農団体たっぐ」－東谷地区協議会（立山町）

③富山県立大学「水土里保全研究会」－梅檀山協議会（砺波市）等

④石川県立大学「学生援農隊めぐり」－夢を語る会（能登町）等

⑤福井大学「農業村応援し隊」－野向町まちづくり推進協議会（勝山市）

⑥福井県立大学「里山応援サークル」－坂井北部土地改良区（坂井市）等



Fig.2 集落と学生のミーティング

(3)マッチングの推進等

「農業・農村を応援する大学生サークルネットワーク協議会」の設立(H26.2.13)

目的：1)大学生サークルと農業集落のマッチングに関する情報交換、2)各大学生サークル間の活動に関する情報交換、3)北陸農政局による農業、農村に関する情報の提供及び意見交換等を行い、もって農業振興やむらづくりの推進に資する。

構成：上記(2)の①～⑥までの大学生サークル及び北陸農政局（主催）

4. 方策の成果

(1)農業集落等への成果（ヒアリング調査による）

①高齢農家の農作業の負担軽減が図られる。

②毎回の作業やイベント時に計画的に作業人員を確保できる。

③イベントやお祭りへの参加により、地域が賑わい活性化に寄与する。

④大学生が尊敬の念を持って、農家に接するとともに、環境など地域の素晴らしさを称賛することにより、農家は農業や住んでいる農村地域を誇りに思う。



Fig.3 耕作放棄地の草刈り

(2)大学生への成果（ヒアリング調査による）

①農業体験や農家の話を聞くことで、農業、農村に関する興味、知識、探究心が深まるとともに、大学の講義、研究の意味が実感として理解できる。

②社会貢献、地域貢献の意味、必要性を深く考えるようになるとともに、「少しは世の中に役に立っている」という喜びと自信を持つことができる。

③農家、行政、マスコミ等様々な人と関わることにより、コミュニケーション能力が向上するとともに、将来の職業選択の参考となる。